



TITLE:

階級・成層および社会的水準化 (記事昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演および研究報告の要旨)

AUTHOR(S):

内海, 洋一

CITATION:

内海, 洋一. 階級・成層および社会的水準化 (記事昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演および研究報告の要旨). 経済論叢 1960, 86(2): 143-143

ISSUE DATE:

1960-08

URL:

<https://doi.org/10.14989/132766>

RIGHT:

經濟論叢

第百十六卷 第二號

労働市場論なき賃金論……………岸 本 英 太 郎 1

ブルック・ファーム……………穂 積 文 雄 19

イギリス革命における農業・

土地問題分析の視角……………尾 崎 芳 治 47

社会科学のひとつの立場……………出 口 勇 藏 61

《記 事》

昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演

および研究報告の要旨…………… 74

昭和三十五年八月

京 都 大 学 経 済 学 会

階級・成層および社会的水準化

内 海 洋 一

第二次大戦後、諸外国においてもわが国にあっては、社会階級 (social class) や社会成層 (social stratification) の研究が盛んに行われている。殊に、成層については実証的研究が成果をあげつつある。私は、この階級と成層の關係を考え、一種の中間項として「勢力成層」の概念を設け、それによつて社会的水準化の長期的傾向を分析しようと思う。

階級は、財産・所得・家柄・職業等々多くの要因によつて定まる。これらの要因は、人に服従される力を持つ。これを社会的勢力と呼ぶ。

成層は、財産・家柄は元より身長・知能指数・兄弟の数等あらゆる標識に基く社会の上下の区画である。その標識は、上下という比喩的表現を許すような量的なものであればよい。成層区画の無数の標識の一部に、勢力の性質を備えたものがある。これを勢力要因という。

各勢力要因別の成層が勢力成層である。また、部分社会における諸勢力による成層も勢力成層といつてよい。勢力成層の総合されるところに階級が成立する。

よい家柄の者が財産も持ち学識もあるという風に、勢力成層が重なれば階級懸隔は大きい。しかし、社会分化が進めば、Aは所得において秀で、Bは社会的尊敬度において秀でるという風に、勢力成層が交錯すると見られる。そして、勢力成層が交錯する限り、階級懸隔は縮小する傾向を持つ。すなわち、社会的水準化は進行する。

(大阪大学助教授)